

科目1

精神保健福祉の理念

講義3

精神保健福祉相談に求められる専門的視点

1) 相談支援の目標

リカバリー概念

相談者の基本的な捉え方

<相談支援の対象>

- 精神障害がある者
- メンタルヘルスの課題を有する者

精神障害等を
有する者

<捉え方>

我が街で暮らす一人の住民が、多様な希望・意向を持ちながらも、精神疾患や社会環境によってもたらされる生活のしづらさを抱えていて困り、苦しんでいる。

どうでしょう、この考え方

精神障害を抱えた人は生活に相当の困難を抱えていて本当に辛くて大変そうに思うんです。

だから、ご本人は積極的には望んでないんですが、多くの支援やサービスを提供することで、できるだけ生活に困ることがないように支えていきたいです。

そうすれば、他の人と同じように暮らしていけると思うんです。



相談支援の目標は「リカバリー」

リカバリー

社会的

住居、就労、教育、
社会ネットワークなどの機会の拡大

パーソナル

本人が尊厳をもって、
目指した人生を歩む過程

臨床的

症状や病気自体の改善

本人の実感

* パーソナルリカバリーは社会的、臨床的リカバリーとの関連はあるものの、必ずしもそれらの評価とは一致しない

支援者の価値観だけで判断せず、本人がどう感じているかを大切にする

2) 相談支援で心がける姿勢

エンパワメント・アプローチ

エンパワメント・アプローチを基盤に 相談支援の目標を定めていく

- 生活の主体者としての自覚が高まるように
- 自分らしくいられる、そのままの自分を認められるように
- その人が望む生活を実現させるための力が発揮できるように



個人

- 他者と安心できる関係が築けるように
- 他者と対等な関係で支え合うことができるように



集団

- 自分の能力を活かして地域の活動に取り組めるように
- 自分の経験を困っている他者のために活用できるように



コミュニティ

3) 相談支援で心がける視点

本人中心・ストレングス・パートナーシップ
権利擁護・多層的に捉える

心がける専門的な視点

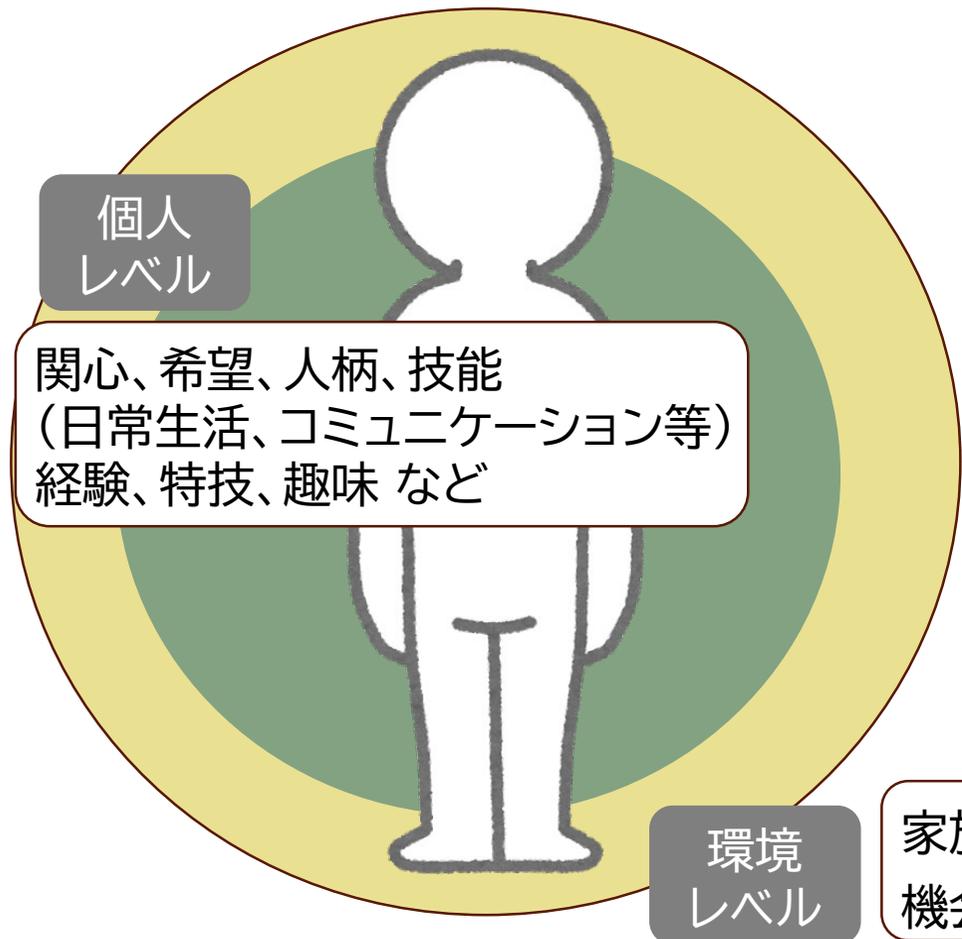
(1)本人中心であること

- 本人が「自分のことを自分で決める」主導権をもっていること
- サービスを受動的ではなく主体的に利用していること
- 本人固有の自己実現を目的としていること

支援者個人の価値観に左右されず、本人を「自らの人生に責任をもつ存在」として考え、本人に「望ましい」ではなく、本人が「望む」生活とはどのようなものかを理解し、尊重すること

心がける専門的な視点

(2) ストレngthス



人が持っている強みや長所のことに着目していくこと。

その人自身に備わっているものに加え、将来の希望や願い、周囲の人間関係などの生活環境も含む。



本人と一緒に個人と環境のストレngthスを見出すことで、相談支援の進み方が肯定的・協働的に変わっていく

家族関係、社会関係(友人、近所の人等)、
機会、支援ネットワーク、地域状況 など

心がける専門的な視点

(3) パートナーシップ

パートナーシップ・・・支援者がもつ専門的な知識と本人がもつ固有の経験や思いを持ち寄り、目標達成に向けて対等な立場で協働していこうとすること



対等かつ相互的な関係性へ



「良かれと思って」の支援は、
干渉的、自由や権利に制限をかける
パターンリズム(温情・父権主義)に
陥りやすい

心がける専門的な視点 (4) 権利擁護

病気や障害があることにより
判断能力が不十分である人の有する
諸権利を侵害しようとするものから

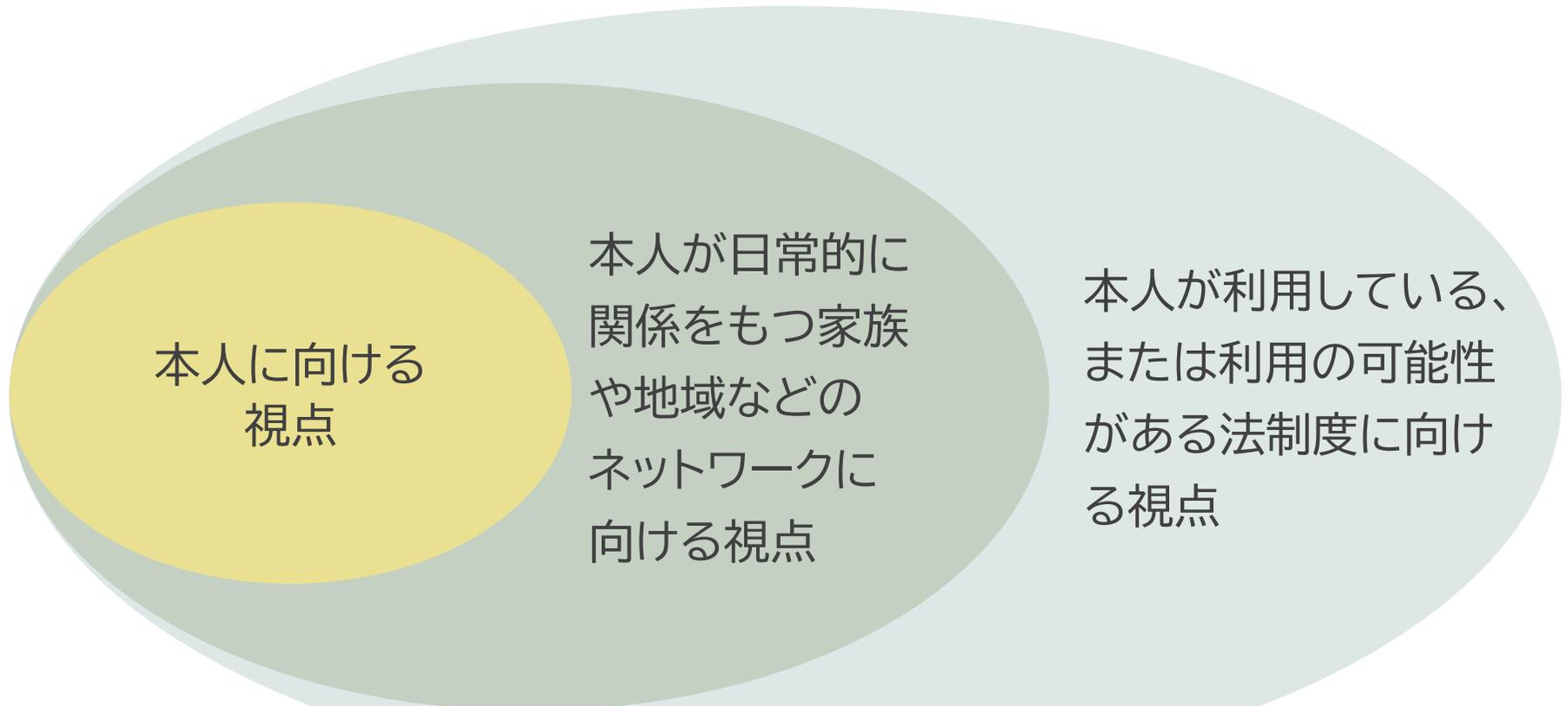
本人の生き方を尊重し、どのような
生活環境の中でも自身の人生を主
体的に歩めるようにする

危害や損失
からの保護



自己実現に
向けた保障

心がける専門的な視点 (5)多層的に捉える



多層の範囲やレベルから、本人の力の発揮を促進するための
あらゆる支援を考えていく、その環境を整えていく

本人の意向を尊重しにくいこともある

本人の思いをなかなか確認できないわ。
病状が重くて自己主張が難しいみたい。

「どうでもいい」と拒まれてしまったわ。
生きる希望を失ってしまっている人に
どうかかわればいいのかしら。

「このまま入院させてほしい」って、
これを尊重していいのかな。
退院できるような状態にはあるんだけど。



それでも社会の支援からこぼれ落ちないように、
不確実性に耐えつつ根気強くかわり続ける姿勢が求められます。

講義3 まとめ

- 相談支援の目的は、主体的かつ有意義な生活・人生であると本人が実感できるようになることである。
- 支援者はどうすればその人が本来有する力を発揮でき、自己実現に向かって歩いていくことができるかを考えて、本人やとりまく生活環境に働きかけようとする姿勢が大切である。
- そのために支援者が心がける視点とは、「本人中心」、「ストレングス」、「パートナーシップ」、「権利擁護」、「多層的に捉えること」などである。

科目1全体のまとめ

- 科目1では、精神保健福祉相談員が基本として持っているべき考え方や価値、相談支援にあたっての姿勢や視点を説明した。
- 概念的な内容であったが、科目2以降の講義を聴講する際の基盤となる考え方である。

参考文献・資料

- 安梅勅江『エンパワメントのケア化学 当事者主体のチームワーク・ケアの技法』医歯薬出版,2007.
- チャールズ・A・ラップ,リチャード・J・ゴスチャ著, 田中英樹訳『ストレングスモデル[第3版]—リカバリー志向の精神保健福祉サービス』金剛出版,2014.
- 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所『リカバリー(Recovery)』ホームページ
<https://www.ncnp.go.jp/nimh/chiiki/about/recovery.html>
- 岡本民夫監修・平塚良子・小山隆・加藤博史編『ソーシャルワークの理論と実践-その循環的発展を目指して-』中央法規出版,2016.
- 植戸貴子「エンパワメント志向の社会福祉実践-利用者とワーカーのパートナーシップ形成-」『社会福祉学研究』,神戸女子大学社会福祉学会(7),p5-20,2003.

ご視聴ありがとうございました。

続いて、

【科目2】精神保健医療福祉の現状及び課題
の動画をご覧ください。

【動画作成】

厚生労働行政推進調査事業費補助金

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進する政策研究」分担研究

「自治体における包括的ケアの推進に関する研究」

【作成協力】

全国精神保健福祉相談員会